

## ■ うかん常山公園

---

高速道路で結ばれた太平洋と日本海のほぼ真ん中、有漢インターチェンジのすぐ近くに「うかん常山公園」があります。その公園の主役が、有漢町のシンボルモニュメント「石の風ぐるま」です。

### 石の風ぐるまが回る理由・大きさ・構造

うかん常山公園にある石の風ぐるまは、土台が御影石、羽根は万成石でできていて、一番大きなもので土台が 40t で、直径 242cm、重さ約 2t の羽根がついています。

石の風ぐるまは、高知県在住の彫刻家 門脇おさむ氏の製作によるもので、うかん常山公園には 7 基の石の風ぐるまがあり、羽根は全部で 18 個あります。

この石でつくられた風ぐるまの羽根は、風速 2~3m（すすきの穂が揺れる程度）の風で回る仕組みになっています。

### 風の物語

「石の風ぐるま」のある公園づくりへの取り組みは、高速道路開通をにらみ、平成 5 年に若者を中心とした住民代表による村おこし委員会でアイデアが出されたのがきっかけでした。過疎と高齢化が進む知名度の低い山間の小さな町の将来を、それぞれが真剣に考え、知恵をしぼる中で、夢を描けるものとして具体化したのです。

うかん常山公園は、ここに住む人々の、まちづくりへの熱い思いや、ここに集う多くの人々の、いろいろな気持ちが融和した公園です。

大きな石の羽根が回るのは、風ぐるまの芯棒がしっかりしているから、小さな芯棒でも重い羽根を回すことができる。小さな町でも、ここに住む人々の思いがしっかりしていれば、たくさんの人がやって来てくれる。風は吹いてくれるのです。

「風をあつめ 風をおこす」を合言葉に、「石の風ぐるまの下に人々が集い、交流が深まることによって、新たな風（活力）が吹いてくる」ことを願い、今日も大きな石の風ぐるまは、静かにそして優しく回っています。